

初期生育の安定確保に向けたほ場準備と健苗育成！

～今後の管理のポイント～

- ほ場の準備を適切に行い高温に負けない稲を作ろう
- 健苗の育成と適切な水管理の実施で初期生育を確保しよう

1 ほ場の準備 ～高温に負けない稲づくりに向けて～

- ケイ酸等の土づくり資材を施用し、高温に負けない稲体の準備をする。
- 耕起前にほ場を十分に乾かし、地温上昇、酸素供給で活着を促進する。
- 作土深 15 cm 確保・根域拡大で異常気象への対応を行う。
- 雑草や稲わら等は早めにすき込み、腐熟を促進する。特に、ひこばえが目立つ場合にはワキの発生抑制のため、早めにすき込む。

2 健苗の育成 ～初期生育の確保に繋げよう～

- 田植えに合わせた播種で老化苗の移植を防止する。(育苗期間は 20 日間をめやすに)
- こまめなハウス管理(温度管理)でヤケ苗の発生を防止する。
- 移植前の追肥(べんとう肥)で活力の高い苗をつくる。
追肥の時期は移植の 4 日前頃、1 箱当たり窒素成分 1～2 g を目安に行う。

3 適期田植え ～植え傷みさせず、活着促進を図ろう～

- (1) 好天日田植えの実践する
 - 強風・低温など、天候不良日の田植えは植え傷みが大きくなるので避ける。
- (2) 太く揃った茎を確保する
 - 密植や大苗にすると過繁茂しやすくなり、倒伏による品質低下につながる。そのため、品種等に合わせた栽植密度で田植えを行い、植込み本数は 3～4 本程度となるように調整する。
 - 深さ 2～3 cm に植え付け、早期活着と下位分けつ(2号、3号分けつ)の確保に努める。

4 初期生育促進で良質茎確保！

～ 田植え後の適切な水管理対策 ～

- ① 田植え後は速やかに入水し、3～4cm の湛水深を基本として苗を保護する。
- ② 低温や強風の場合は 4～5cm のやや深水にして、保温的な水管理で植え傷みを回避する。ただし強風地帯では、その程度に応じて水位を調整する。
- ③ 活着後は、2～3cm のやや浅水管理とし、分けつの早期発生を促す。
- ④ 除草剤の田植え同時処理では、田植え後速やかに入水し薬剤の拡散を促進するとともに薬害の防止を図る。



5 ワキ対策の徹底～ワキ発生を抑制し、根の伸長促進を図ろう～

気温の上昇とともにワキ（メタンなどのガス）が発生し、根腐れなど生育障害を引き起こす。

- 用水の更新（夜間落水等）などでガス抜きを行い、根の健全化に努める。

ワキの発生程度とその対策

ワキの程度	ワキの発生程度	水稻生育への影響	6月上旬までの対策 注)
少	水田に足を踏み込むと僅かに気泡の発生がみられる。	なし	—
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	根の活力低下	用水の更新（夜間落水）
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する。	根張り不良	用水の更新を繰り返す
甚	晴天時自然に気泡を発生し、音が聞こえる。また水田を歩くと著しく気泡を発生する。	根の伸長阻害、地上部黄化	間断かん水

注) ただし、用水が不足する場合、落水は最小限とし、節水を心がける

- アオミドロが多発生するほ場では、アオミドロに効果のある除草剤を使用するとともに、多発生傾向が見られたら、事前に水位を下げたり、落水したりして繁茂を抑制する。

6 雑草防除 ～除草剤の施用遅れがないように散布しよう～

除草剤を使用する際には、同じ成分を連用しないように心掛け、除草効果を維持する。特定の雑草が繁茂する場合は、対象雑草に効果の高い除草剤を選ぶとともに、ラベルの注意書き（使用時期、使用量、使用方法など）を良く読んで、正しく使用する。

- 丁寧な畦塗りや代かきで漏水を防止し、田面を均一にすることで除草剤の効果を高める。
- 初期剤は、河川等への流出を防ぐため、田植え時または田植え後に散布する。
- 雑草の発生状況をよく確認し、散布適期から遅れないよう早めの散布を心がける。
- 除草剤の散布に当たっては、必要な水深（粒剤は3～5cm、フロアブル剤は5cm程度、ジャンボ剤・豆つぶ剤は5～6cm程度）を確保する。処理後7日間は止水（落水、入水を控える）とし、4～5日間は湛水状態を保つ。

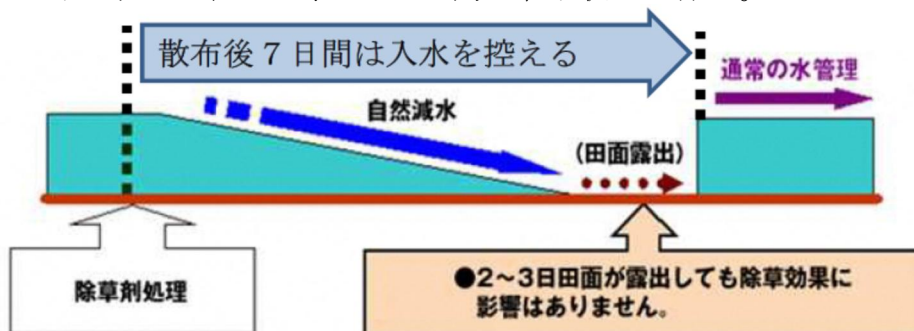


図 除草剤散布の水管理イメージ

令和8年度も生育速報や技術情報等を定期的にホームページに掲載します。ぜひ活用下さい。
また生育速報や技術情報について、直接メール配信を希望される場合は、右記に記載のQRコードから申込をお願いします。

